七飯町立七重小学校　学校だより　第３号　　令和７年６月３０日発行

あかまつ

本校経営・教育活動推進理念　自　分　か　ら
教育活動・授業推進重点目標　ま　っ　す　ぐ

「気付く」ことを「気付かせる」

校長　五十嵐　義幸

「子どもたちが道路ぎわギリギリを歩いて危ないです！」
「信号が青になったとたんにダッシュするのは危険です！」

子どもたちに交通安全指導をしてほしいという声が学校に届きます。その都度、また毎日、各学級で、熱く指導しています。７月２日（水）には、警察官や女性交通指導員・見守り隊の方々に来校いただき１・２年生を対象とした「交通安全教室～通学時の安全」を行います。

ところで、私たち大人が道を歩く子どもの動きを「危ない！」と思うようになるのはいつからでしょうか。私が強く感じるようになったのは、自分で自動車を運転するようになってからだと思うのです。車から見た歩行者や自転車の姿を知って、「道路間際を歩く人」に事故の危険を感じ、左折しようとして急に走り出した子どもの姿に「ハッとする」経験をし、たくさんの「危ない！」を実感してです。

子どもたちの目線からは「危ない！」が、まだそれほど実感に結びついていないかも知れません。だから、何度も繰り返して「危ない！」の理由と状況に気づかせる必要があります。学校だけでは全然不足です。ご家庭での指導、我が子の命を守る指導をお願いします。

実は、相手を傷つける言葉も自分では気づけないことの一つです。「バカ」「死ね」「きも」…。言葉をきっかけにしてトラブルも起きています。そのような言葉を使うこと、使う人自身が、とても悲しいことだとはなかなか気づけないです。回り回って自分が嫌われたり損をしたりします。自分自身を傷つけているということに気づくのは、やっぱりだいぶ大人になってからです。

ところで、「気付かせてあげたい」ことばかりがあるのではありません。子どもたちに気づかされ、勇気をもらい、気持ちが温かくなることの方がその百倍も千倍も山ほどあります。少しだけ紹介します！

〇校長室の歴代校長写真を見て「これかぁ、ベートーベンって。大昔の人だよね。」と１年生。
思わず吹き出しちゃいました。それからというもの、私にもベートーベンに見えてしまう。

〇工事中のクレーン車を見た２年生「クレーンゲームでこのクレーンがあったらいいな！」
「全部取れちゃうね」と私。雨の日でしたが、高いクレーンの先を一緒に見上げていました。

〇「海のない県って北海道？」…３年生社会科でのお話。「海に囲まれている」と「海がある」のイメージは、実は難しいと思いました。北海道は大きいのでなおさらです。

〇国語４年生の作品「決まったと　思う間もなく　返り来て　送球のたま　コートにささる」
この短歌のすごいところは光景が目に浮かぶことです。ちなみに羽球だそうです。なるほどです。

〇「僕が行く！」…坂を駆け下りそうになった１年生を止めてくれた５年生。とっさの判断と行動力に確かな成長を感じました。他を支え助ける気持ちの広がりがうれしいです。

〇「これでいいわけじゃない!!もっと話さなきゃ」…運動会前日の作戦タイムを終えて６年生。
６年生はやっぱり最高学年なのです。リーダーとしての力強さと頼もしさを感じました。

子供たちが輝いたフェアプレイ運動会

すがすがしい空のもと、６月１０日（火）に１～３年生の部を、１２日（木）４～６年生の部を開催しました。朝早くより、多くの皆様にご来校いただき、一つ一つの種目で、温かく、力強いご声援をいただきました。また、借り人競走では、たくさんの方にご参加いただきました。フェアプレイ運動会を大いに盛り上げていただき、感謝いたします。

フェアプレイ運動会では、最高の笑顔で表現運動を行う姿、最後まで諦めず全力を出し切る姿、相手や仲間とまっすぐ向き合ってリスペクトし合ったり、応援したりする姿など、児童が輝く姿が多く見られました。子供たちのフェアプレイ運動会にかける思いや成長を感じることができ、大変うれしく思いました。

学校では、今年度の良かった点・改善点を検討しております。次年度は一層、子どもたちが輝き、成長につながる運動会になるよう改善を図ってまいります。

七小オリンピック（体力テスト）

写生会より

『いじめ見逃し０』に向けて

学校では、友達とのかかわりの中で、楽しいことやトラブルが起こります。ちょっとしたきっかけで、友達から気になることを言われたり、からかわれたり、嫌なことをされたりしてけんかになることがあります。このようなトラブル等の中で、いじめと疑われる行いが見られた場合や、本人や保護者から相談があった場合には、じっくりと聞き取り、判断によってはいじめと認知し、解消に向け取り組んでいます。

６月上旬にいじめにかかわるアンケートを実施しました。アンケートの中で，「誰かに嫌なことを言われたりされたりしたことがある」と 回答した児童は６７名おりました。学校は，相手に悪意が「ある」「なし」に関係なく，嫌な思いをしていることについては，いじめに繋がる事案と捉えて対応しています。保護者の皆様の協力もあり，子供たちは落ち着いて学校生活を送ることができています。なお、子供たちが書いていたトラブルとして下記のようなものがありました。

嫌な思いをした子供の立場や気持ちを最優先と捉え、その子供の心身の 安心・安全確保を行い、相手の子供に対しても適切な指導や助言を行ってまいります。今後とも，「いじめをしない，させない，許さない」学校づくりを推進していきます。ご家庭でも，何か気になることがありましたら，どんな些細な事でも結構ですので，学校にお伝えください。

≪子供たちの書いた 嫌なこと≫ ※おおまかな内容

- 嫌なことを言われる
  （からかい、悪口、嫌味、陰口、あだ名、あおられる、じゃまと言われる、仲間はずれにすると言われる）
- とられる（鉛筆、消しゴム、筆箱、ボール）・かくされる
- 叩かれる　・ぶつかられる　・つかまれる　・けられる
- おにごっこでタッチをしたら叩かれた
- ちょっかいを出される　・大声を出される
- 無視される　・仲間外れにされる
- 一緒にいたいので隣に行くとどこかへ行ってしまう
- 鬼ごっこで鬼をさせられる
- 服を引っ張られる
- トイレでのぞかれそうになった
- 一人にさせてもらえない